

岩手県 グループホームゆいっこ 自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「目配り・気配り・思いやり」の他「役割のある生活」「お互い様」という理念のもとにケアを実践している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は共有スペースにも掲示しており、申し送り等にも話され、ケアプランにも反映されている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会・夕涼み会・忘年会に家族・地域の方・行政の方を招待し「ゆいっこ」の状況報告等紹介している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の人から野菜をもらったり散歩の途中で立ち寄ったり気軽に声を掛け合えるような馴染みの関係作りに取り組んでいる。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は入居者が孤立することなく地域の一員として小学校・保育園・公民館活動へ積極的に参加しているし、毎日の買い物・ドライブで外に出かける支援をしている。	孤立した生活をしているとは思えないが、地域の一員としての取り組みは不足していると思うので、自治会・老人クラブの入会も働きかけていきたいと思う。

(事業者名 グループホームゆいっこ)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は利用者の支援を基盤に地域の各公民館に出向き認知症について講演をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義は十分理解し改善に取り組んでいる。		既に勤務している職員は外部評価が勉強になったと感じており新人に対して「外部評価のときは休みでも着たほうが良い」と声を掛けている場面がありましたし、自己評価についても新人・経験者関係なく全員で取り組みをしました。また、経験者は新人に対して積極的にマニュアルを作っていました。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の現状報告や取り組みをしている行事についての報告をしている。また、今年度は2回目になります運営推進委員の皆様他GHの研修をしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は他GHと協力しながら市町村へサービスの質の向上につながる取り組みに関して随時連絡を行っているし、気軽に声を掛け合えるような関係作りをしている。		行政に提出する書類等も管理者だけが実施するのではなく、職員にも経験させている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会はあるものの実際に活用できるような支援は出来ていない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人事業所内で毎月持ち回りで研修を行っており、管理者は研修内容を職員にその都度報告している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約をする際は十分な説明をし、理解・納得をして頂けるよう勤めているが中心になるのは家族で利用者が十分理解納得をしているかは疑問に思うが利用開始後の入居者の生活の充実に努力をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族が意見や苦情・相談が出来るようポストを作ったり、定期的な介護相談員の受け入れをしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らし、健康状態・金銭管理・職員の移動については月1回のケース記録金銭出納帳の送付や面会時の報告・家族会での報告で反映させている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営者・管理者・職員も同席の定期的な家族会の開催で反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者・管理者・職員も同席の定期的な部署会議の開催で反映させている		全て管理者が決めるのではなく、職員一人一人に役割を待たせし、誰もが話せる(相談できる)関係作りに努めている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	個別希望外出にも対応できるように職員のシフトを考慮している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は入居者の状態を理解し、馴染みの関係の職員の部署の異動は現在行われていない。やむを得ず離職する職員が出た場合は入居者に与えるダメージを防ぐ配慮をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者及び職員が地域の同業者と交流する機会に職員を全員が公平に参加できるよう積極的に参加させている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修のみならず地域の同業者との交流・交換研修・親睦会に参加させネットワーク作りをさせている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	「ゆいっこ＝お互い様」を基本的考えとし、長所を生かし欠点を補うチームワーク作りと運営者を交えた定期的な親睦会の開催をしている。また管理者は職員との個人的な面談で個々の悩みを聴いている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々に役割を分担させ各自の向上心や実績が発揮できるようにしている。研修報告や事業計画についても部署会議で取り上げる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	調査の際は家族だけではなく、本人とも十分話をして本人の気持ちを確かめるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	直接相談に来られる方、電話での相談を頻回に受けているが不安なこと困っていることなどを良く聴くように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者の意向を聞きその人にあった施設サービスを紹介したり直接問い合わせをしてあげたりしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居開始前に見学に来て頂いたり、遊びに来て頂いて入居者と一緒にお茶を飲んで頂きグループホームの雰囲気を感じていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に家事や昔の慣わしについて教えて頂いたり、畑仕事や家事については入居者主導でやって頂いていることもあります。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	夕涼み会や忘年会等行事に参加していただき一緒に食事をしたりして楽しんで頂いただく時間を作っていますし、家族の方から地域の行事について教えて頂いて参加することもあります。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員が入居者から聞いた話や家族への思いを月1回のケース記録で報告しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の自宅が近隣の場合は馴染みの床屋とか美容院へ行っていますし、遠方の場合はふるさと訪問を実施しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い入居者同志が集まって歌を歌ったり、お互いの部屋を訪れたり、ADLの低下した入居者を助けてあげたりする様子も見受けられます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後にも訪ねてきてくれたり、職員が訪ねて行ったり、家族が立ち寄ってくれたり、ボランティアに来てくれたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のケアプランを作成し、ニーズを探り出しその人本位の生活をして頂くようにしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族及び面会に来られた親戚の方からの情報を職員が共有し、センター方式のケアプランに生かしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	体調やADL精神状態の変化が見られたときは全職員が把握できるように詳細に申し送りをし、対応について検討しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知症が進行すると本人の思いを聞き出すことは出来ないが会話の中で本人の思いに近づく事は出来ると思うので日々の関わりの中で探り出す努力をしている。ケアプランについても家族に理念の共有をして頂き納得して頂いている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	GHでの生活が安定してくると個々の入居者の変化もなくなり継続のサービスになる事が多いのですが、ちょっとした変化にもすばやく対応出来る様に申し送りで話し合わせモニタリングを行う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送りや部署会議ケアカンファレンス等で職員間での情報の共有は出来ていると思うが不十分なところがある。		その日の勤務者だけが知るのではなく、共有する為の手法が課題であると思う。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じての個別外出や通院等を行っているものの共用型の通所サービスの実現には至っていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校・保育所・公民館・民生委員・警察・消防署・協力医療機関等へ定期的に入居者と一緒に広報を配布しに行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの活用支援は実施されていない。		いったんGH入居するとそこが生活の拠点になり他のケアマネジャーとの関わりが途切れてしまうように思うし、GHで穏やかに生活している認知症の方の環境を変えることに不安を感じています。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行政からの働きかけを待っているのではなく、4箇所のサービス事業所が連携を取り地域密着型サービス事業者懇談会を発足し、定期的な会合を開き、今年度は町内の皆さんに呼びかけ認知症についての映画会を開催したり、認知症相談窓口の看板の設置等に取り組んでいる。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医及び協力医療機関や法人の看護師との連携協力体制は出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医の嘱託医は決まっておらず家族と相談しながら必要な時は受診をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が週2回入居者の健康管理のために来所し、週1回嘱託医の回診があり入居者についての相談は気軽に出来ている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者にとってのベストな状況を家族や医療機関と話し合いを継続しながら進めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の思いを十分理解し家族との話し合いや職員間の重度化した場合の対応の方法を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在の入居者の中で重度化して寝たきりになった方を家族と十分話し合い嘱託医や看護師とも連携し、職員間での意思統一をはかり実施している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	法人内の特養へ入所申請をしていた方が2名家族の希望で移り住んでいます移動してからも毎日面会に行ったり、来たりして関係作りを継続しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者が不快な思いをしないように、一人一人に合わせた声がけをしていますし、耳の遠い方には耳元で話すようにしています。排泄に関してもマニュアルを作り職員が共有しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常的に外出希望があれば対応しておりますし、外食・個別希望外出等も実施しております。行事は入居者と相談して一緒に行く場所を決めています。ふるさと訪問も実施しております。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物・食事作り・畑仕事・裁縫等自主的に活動している方もいますが入居者同士でトラブルになることもあるのでそのときは職員が間に入って活動の手助けをすることもあります。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容院や床屋を利用している方もいますし、床屋さんに来所して頂き本人の希望を聞いて頂きながら散髪して頂きます。着る服も自分で選んで頂いていますが、混乱してしまわれる方には二者択一で選んで頂いています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一日3食とも入居者の出番を作り食事の準備をしていますし、片付けも職員と入居者が協力して行っております。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個別でお茶やジュースを飲んで頂いておりますし、お茶やコーヒーはいつでも飲めるようにしています。買い物の時に自分の財布を持って嗜好品を購入して頂き、支払いも本人にして頂いています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人に合わせた声がけをし、定時のトイレ誘導をしていますし、オムツの方も定時にポータブル誘導をしています。便秘対策として毎日乳製品の摂取・玄米入りご飯を食べて頂いています。排泄マニュアルは職員が共有理解をしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や入浴時間は決めておらず本人の希望に合わせた入浴をして頂いていますし、季節感を味わって頂く為に菖蒲湯やゆず湯を実施しております。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の臥床時間を減らし、ドライブ・ぬりえ・カラオケ・体操・輪投げなどのアクティビティプログラムも導入していますし、夜間の不穏時は本人が納得できるような対応をしています。夜間入浴も実施しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	理念でも有る「役割のある生活」を日々のケアの基本とし入居者には毎日出番を作っております。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や出かける際は必ず個々の使い慣れた財布を持っていただき個々の買い物をして頂きますし食材の支払いもして頂いています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	全員が一緒に出かけることもありますが、個々の状態にあわせ、建物周辺を散歩したり、本家(特養)に行ったり、畑に行ったり近所を散歩したり、ドライブに出かけたりしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常的にドライブは実施し行き先は町内に限らず、花巻の広城公園やイギリス海岸・葛丸ダム・煙山ダム・駅伝の見学等対応していますし、その他事業計画の中には花見・外食・バスハイク・日帰り温泉ツアーがあります。日帰り温泉ツアーはご家族も一緒です。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内の電話を利用して本人が自ら電話をする時もありますし、入居者に電話がかかってきた時は子機を使用し自室で話していただいています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族に限らず、本人の馴染みの方の訪問時は皆さんにもご紹介し一緒にお茶を飲んで頂いたり、自室でお茶を飲んで頂いています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束廃止検討委員会の中での内容を職員が共有したり、研修に参加し、参加した職員の研修報告を部署会議の時で共有している。		管理者だけが検討委員になるのではなく、各事業所の職員の参加について法人に働きかけている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	熊が近隣に出没する場合があるので自動ドアを手動にする場合もあるが常に自由に出入りできる状態にしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	認知症を十分理解し行動の裏に隠れている原因を探り出し本人の思いに寄り添えるような対応をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	管理保管場所は決めているが石鹸やうがい薬・消毒液は入居者の手の届くところで自由に使用できる状態である。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメントの研修に参加し職員が共有している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	基本的なことはマニュアルで共有しているが急変時に全職員が全員対応できるか不安な面があるが嘱託医や看護師が早急に対応してくれる。救命救急の講習は受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内での取り決めがあり定期的な避難訓練は行われているがGHだけの取り組みとして反射材を使用したタスキを製作している。地震災害・水害に対する避難訓練の実施は現段階では行われていない。		地震対策マニュアルの作成を今年度中に完成させる予定です。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	急性心筋梗塞の既往歴のある方・糖尿病・水痘症の方も入居されていますが基本的には制約は作らず自由な暮らしを継続して頂いています。そのために十分ご家族と話し合い同意書を作成している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックによりその日の状態を把握し、申し送りで共有し、再検・様子観察・看護師との連携で対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の管理表を作成し・目的等は病院から頂いたものを個々のケースに添付している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給・乳製品・玄米を取り入れ自然排便に力を入れているし、定時のトイレ誘導で排便を促す取り組みをしている。(腹部マッサージ)		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きの声がけや確認表で口腔ケアの徹底を図っている自分で出来ない入居者の方には介助をしている。		平成20年8月24日仙台で開催された日本認知症ケア学会で福島の本間Drの講演を聴いてきましたがいかに口腔ケアが大切な再確認して来ました。次回の勉強会で取り上げたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認表を作り入居者の食事摂取量の確認をしているし、摂取量の少ない方には補食で対応したり嗜好品で水分補給をして頂いている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人の感染症予防対策委員会での内容を職員が共有しているし、他の研修に参加した職員は部署会議で報告し職員で共有しているまた日常的にうがい・手洗い・手指消毒は行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後の調理器具の消毒の徹底と毎日の買い物に行き新鮮な食材を購入しているし、食事前の手指消毒の徹底に心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	東西に緩やかなスロープがあり玄関にも東西2箇所のスロープを設置しているし、食堂に直接出入りが出来るドアもあるので近隣の方が土のついたままの野菜を持ってきてくれることもある。建物周辺には花を植えたり畑があり生活観が感じられるようになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物周辺が自然に囲まれているし、県道や高速道路も見えるところなので様々な生活観や季節感を感じていただいていると思います。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の居場所は色々あり、食堂ホール以外にも和室・廊下にも椅子が設置されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に寝具類は皆さんが家で使用していたものを持ってきていただいています但しその他の家具類は十分とはいえないように思います。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除も入居者と職員で行っていますのでそれぞれの部屋や玄関和室等窓を開けてお掃除をしていますし天気の良い時は布団干しもしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手を出さない勇気・口を出さない勇気をモットーに入居者の出来る力を引き出しているし、日常生活リハビリを取り入れている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者が自己選択自己決定できるよう見守る勇気を心がけています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前の椅子や建物周辺では季節ごとに花火見学・夕涼み会・プール遊び・日向ぼっこ・畑仕事・洗濯もの干しなど入居者が活躍できる場所がある。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症のケアの大切なことは認知症の基本的な事を理解した上で職員の個々の個性は認めつつ、自分達のGHの目指すケアの共有を実践していますし、職員のチームワークを大切にしています。職員自ら他GHの研修希望があり今年度は2回実施しましたが、当GHの良さや不足している点に気づきがあり職員の向上心も垣間見えたように思います。アピールしたい点は特別なことはしていないが、入居者が毎日生き生き楽しく暮らすサポートを職員全員で取り組んでいることです。